

# Encourage & Company

皆さんこんにちは。  
エンカレッジアンドカンパニーの堀です。

私のコラムでは、中国の故事成語について、我々の日常に何か応用できないか、という観点でシリーズとして書き綴っています。

- 第1回目は「牛耳る」という言葉についてお話ししました。
- 第2回目は「鳴かず飛ばず」。
- 第3回目は「司馬懿仲達」について。
- 第4回目は「我れ鳥獣にあらず」。
- 第5回目は「国士無双」「狡兎死して走狗煮らる」。
- 第6回目は「鼓腹撃壤」。
- 第7回目は「外戚」という言葉について。
- 第8回目は「論語①」について。

私は日本企業の中国進出についてのセミナーをやらせて頂くことが多いです。個人的な趣味と思っていたアプローチですが、日本人と中国人の最大公約数から価値観や行動原理について理解を深めていきたいと思います。冒頭に申し上げます。具体的には、儒教と徐福（始皇帝の命で日本に不老長寿の薬を探しに来た人）についてです。この仕事を続けるにつれこの2つのキーワードは思った以上に一般的なアプローチであると考えを改めるようになりました。

ある種似ているアプローチで、価値観や行動原理について中国の歴代教科書から探れないかという書物があり興味深く読みました。「東郭先生と狼」についてご紹介します。

書生（東郭先生）が獵師に追われる狼をかわいそうに思い、かくまってあげました。しかし狼は恩を感じるどころか難を逃れた機会に乗じて書生を襲い喰らおうとしました。そこに通りがかった農夫が見事に狼を騙して袋に誘い込みたたき殺しました。農夫は書生にこう言いました。

「狼相手に慈悲を説いたりしてはいけないよ。この教訓を良く覚えておくんだ。」

ここでの教訓は、書生の慈悲自体は真に良いものと捉えられるが、現実世界から俯瞰すると、世間知らずの愚かな行為となってしまう価値観だと思います。

# Encourage & Company

つまりセンチメンタルで気持ちの持ちようでいかようにも変化する自らの親切心なんかより、善と悪を明確にしたうえで厳しい現実、競争社会と対峙すべきということだと思っています。

日本人はこの価値観を理解出来るものの、根底には持っていないと思います。そして根底にこういった価値観を持った人とビジネスするのですから、理解する心や工夫をしないと良い結果は得られないと思います。

海外に関するビジネスに従事すればするほど、  
「東郭先生と狼」が世界基準であると思うようになりました。

堀 洋三